

【テーマ1】 多彩な都市の魅力があふれ、楽しく過ごせる大阪

めざす方向

◎2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、更なる集客促進と都市魅力の発信を目指します。

(中長期の目標・指標)

・都市魅力の推進にかかる新たな戦略を策定し、2020年度に向けて、「世界中から人、モノ、投資等呼び込む『強い大阪』、「世界に存在感を示す『大阪』」の実現をめざします。

2020年オリンピック・パラリンピックを見据えた、更なる集客促進と都市魅力の発信

<今年度何をするか(取組の内容、手法・スケジュール等)>	<何をどのような状態にするか(目標)>	<進捗状況(H29.3月末時点)>
<p>■都市魅力の推進にかかる新たな戦略の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度に向けて、さらなる都市魅力のステップアップを図り、府域全体の発展に資する新たな戦略が必要であることから、大阪府・市のみならず、府内市町村や経済界等の関係者が一体となって、オール大阪で都市魅力関連施策を進めていくための戦略を策定する <p>(スケジュール)</p> <p>28年6月末 : 戦略素案とりまとめ 8月上旬 : 戦略案とりまとめ 10月 : 戦略策定</p>	<p>◇活動指標(アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市魅力の推進にかかる新たな戦略を策定(平成28年10月中) <p>◇成果指標(アウトカム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度に向けた大阪の都市魅力の将来像と取り組むべき施策について、オール大阪で方向性を共有する 	<p>○2020年に向け、大阪を世界的な創造都市、国際エンターテインメント都市へ加速させる「大阪都市魅力創造戦略2020」を策定公表(11月)。また、策定した戦略を見やすく解説する概要版パンフレットを作成(12月末)。</p>
<p>■大阪ミュージアム(*1)の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪ミュージアム登録物を活用して、地域魅力を府内外に発信するとともに、府域への集客・回遊を促すキャンペーンを展開する「地域魅力発信事業」を実施する <p>(スケジュール)</p> <p>28年5月下旬 プロポーザルによる事業者選定 28年6月上旬 事業開始 29年3月末 事業終了</p>	<p>◇活動指標(アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑誌等への大阪の魅力の掲載 ・抜き刷り冊子の作成、配布 ・冊子を活用したキャンペーンの実施 <p>◇成果指標(アウトカム)</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府内外への大阪の魅力発信、集客・周遊の向上 <p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンペーン参加人数:3,000人以上 	<p>○10月22日発行「関西ウォーカー」のブックインブックとして、関西2府4県に「大阪ミュージアム Walker」を約5.6万部発行。</p> <p>○抜き刷り冊子を2万部作成し、鉄道主要駅、郵便局、イオン、ローソン、観光案内所、各種イベントにて配布。</p> <p>○キャンペーンとして「大阪ミュージアム×謎解きクイズラリー」を実施(平成28年10月22日～平成29年2月28日)。</p>

○電子媒体（facebook、twitter、関西ウォーカーTV）、雑誌媒体（1月～2月発行の関西ウォーカー、春ウォーカー）による府内外へ情報発信。

○キャンペーンの参加者は延べ2,638人

府域への戦略的な観光集客と観光客の受入環境の整備等

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（H29.3月末時点）>
<p>■大阪観光局における活動を支援し戦略的に観光集客を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外での戦略的なプロモーションや、Wi-Fi 環境の整備拡大、観光情報の発信など、集客促進に向けた大阪観光局の取組みを支援する ・観光データの収集やマーケティングの強化、また各種データに基づくDMO戦略（アクションプラン）の策定を行うなど「大阪版 DMO」としての取組みを促進していく <p>（スケジュール） 通 年 プロモーション実施、Wi-Fi 環境の整備拡大、各種データ収集、マーケティング等を実施 28年度後半 DMO 戦略の策定</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外プロモーションの実施、Wi-Fi 拠点の拡大 ・大阪版 DMO における戦略（アクションプラン）を策定 <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪観光局における活動を支援し、国内外からの観光集客の一層の促進を図る （府市で策定する新たな「都市魅力戦略」での目標設定を踏まえ、延べ宿泊者数や来阪外国人旅行者数等を設定） 	<p>○マーケティングリサーチに基づく国内外でのプロモーションの実施やHPやガイドブックによる観光情報の提供により、大阪への集客の取組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年の来阪外国人旅行者数 941万人 ・Osaka Free Wi-Fi 設置拠点数 4,549箇所（前年度比+223箇所） <p>○観光庁が進める「日本版DMO候補法人」に大阪観光局が登録され（4月）、地方創生推進交付金計画書及び地域再生計画を国に提出（6月）、交付決定と計画認定を受けた（8月）。</p> <p>○大阪観光局において、マーケットリサーチを踏まえたDMO戦略の策定などを行った（平成29年3月）。</p>
<p>■観光客等の受入環境の整備</p> <p>・大阪おもてなしステーション（仮称）の整備 来阪旅行者の急増に伴い、多様化する旅行者のニーズに応えるとともに、更なるリピーターの確保をめざし、民間が実施する利便性向上のためのサービスと連携し、旅行時のトラブル対応など、安全・安心を合わせてワンストップで提供する</p> <p>（スケジュール） 28年春～夏 開設準備 28年度中 開設予定</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪おもてなしステーション（仮称）の整備 JR 大阪駅構内において、旅行者のニーズが高いサービスを集約してワンストップで提供する「大阪おもてなしステーション（仮称）」の28年度中の開設をめざす <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行時のトラブル対応など、行政として対応すべき様々な相談に応じる総合相談とともに、外貨両替等の利便性向上のためのサービスや観光案内を民間、大阪観光局と連携して一体的に提供し、旅行者の満足度の向上を図る 	<p>○JR 大阪駅構内において、JR 西日本及び大阪観光局と連携し、観光案内や旅行時のトラブル対応等、様々なニーズに応じる総合相談や、外貨両替や手荷物預かりなど、旅行者の利便性向上のためのサービスをワンストップで提供する「トラベルサービスセンター大阪（愛称：おもてなしステーション）」を整備し、29年3月に開業を行った。</p>

<p>・多言語化緊急対応整備 急増する外国人旅行者に対応するため、観光施設や宿泊施設の多言語化の取組みに対し、補助を行うことにより、旅行者の利便性の向上を図り、さらなる観光集客につなげていく</p> <p>(スケジュール) ～28年9月頃 補助金申請受付 28年10月頃～ 補助金交付決定</p>	<p>▷ ◇活動指標 (アウトプット) ・観光施設等における多言語化の促進に資する取組みや、宿泊施設における外国人宿泊客の利便性向上のための取組みに対する補助制度を創設する</p> <p>▷ ◇成果指標 (アウトカム) ・観光施設や宿泊施設等に対し、十分な周知を行うとともに、補助制度の活用促進を図る</p>	<p>▶ ○補助制度を秋頃を目途に創設し、申請受付を開始する予定であったが、国が補助事業の拡充を行ったことなどから、28年度での事業実施は見送り、29年度事業として、事業者が取り組む際のインセンティブとなるよう、ニーズに沿った事業として拡充し、実施することとした。</p>
<p>・外国人旅行者安全確保 来阪外国人旅行者が急増する中、「新・大阪府地震災害アクションプラン（平成27年3月策定）」に基づき、外国人旅行者に対する情報提供の強化とともに、現場における支援体制の構築を図ることで、外国人旅行者の安全確保をめざす</p> <p>(スケジュール) ～28年12月頃 ワークショップを通じたフロー図の作成 28年10月頃 ポータルサイトの充実 啓発カードの配布先の開拓 29年2月 全体報告会において、府内市町村及び関係事業者等に連携方策を周知</p>	<p>▷ ◇活動指標 (アウトプット) ・H27年度に作成したポータルサイトの周知の継続及び内容の充実を図ることにより、外国人旅行者に対する情報提供を強化するとともに、災害発生時から帰国までの流れをフロー図として整理し、関係機関の役割や連携方策の検討を行うことで、外国人旅行者への支援体制の構築を図る</p> <p>▷ ◇成果指標 (アウトカム) ・災害情報を入手しやすい仕組づくりとともに、災害時の円滑な支援体制を構築し、外国人旅行者が安心して旅行できる環境づくりをめざす</p>	<p>▶ ○災害時における来阪外国人旅行者の安全確保について、民間事業者と事業連携協定を締結した（6月）</p> <p>▶ ○ポータルサイトの内容充実のため、府内の訪日外国人受入医療機関の検索HPのリンクを追加するとともに（11月）、その周知を図るため、啓発カードを増刷した（平成29年3月）</p> <p>▶ ○地域の意見を反映した支援体制を構築するため、大阪市と堺市の2地域の自治体・宿泊施設・観光施設が参画するワークショップを開催し（12月、平成29年3月）、支援フロー（案）として取りまとめた（平成29年3月）</p>
<p>・天保山客船ターミナル整備調査検討事業補助 大阪府・市連携のもと、天保山客船ターミナルの整備方針や事業手法などの調査検討を実施</p> <p>(スケジュール) 28年7月末 : 実施方針（案）公表 12月 : 詳細な整備内容の決定</p>	<p>▷ ◇活動指標 (アウトプット) ・詳細な整備内容の決定（平成28年12月）</p> <p>▷ ◇成果指標 (アウトカム) ・広域的観光集客に資するため、天保山客船ターミナルの整備を促進する</p>	<p>▶ ○事業者との対話や大阪市PFI事業検討会議における意見等も踏まえ、実施方針を策定・公表した。（平成28年12月）</p> <p>▶ ○また、「天保山客船ターミナル整備等PFI事業」を特定事業として選定・公表した。（平成29年1月）</p>

<p>■御堂筋開放イベントの実施</p> <p>・国内外に発信できる集客装置である御堂筋を活用して、非日常的なオンリーワンコンテンツを通じて大阪の魅力を内外へ発信し、多くの方に大阪に来ていただくための起爆剤となるイベントを開催</p> <p>(スケジュール) 28年11月下旬：御堂筋開放イベントの実施</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・御堂筋開放イベントの実施</p> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>（定性的な目標）</p> <p>▶ ・御堂筋を国内外に発信できる集客装置として活用して、国内外からの話題を集め、御堂筋・大阪の魅力を発信する</p> <p>（数値目標）</p> <p>・報道等掲出回数及び来場者の満足度を前年度以上にする （平成27年度実績 報道等掲出回数 51回 来場者の満足度 76.6%）</p>	<p>○御堂筋ならではの上質なエンターテインメントとして、海外で活躍するアーティストによるファッションショーやメダリストによるスポーツコンテンツ等からなる「御堂筋ランウェイ」（11月）を開催した。</p> <p>▶ 平成28年度実績 報道等掲出回数 78回 来場者の満足度 65.0%</p>
--	--	--

水と光とみどりのまちづくりの推進

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（H29.3月末時点）>
<p>■水辺の回遊性向上に向けた取組み</p> <p>・水辺のライトアップや遊歩道緑化、更には水辺の賑わい空間づくりを進め、水都大阪の魅力を磨きをかけていく</p> <p>(スケジュール) 29年3月：ライトアップ工事及び緑化整備の完了</p> <p>■「水都パートナーズ」(*2)と連携した水辺の賑わいづくり</p> <p>・水都大阪パートナーズとの協働により、水辺拠点での賑わいづくりや、舟運活性化に向けたイベント実施を通じて、水都大阪の魅力と認知度向上に努める</p> <p>(スケジュール) 28年9月～10月：水都大阪フェス（仮称）の実施</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・水辺の回遊性向上に向けた取組み →堂島川護岸のライトアップ及び遊歩道の緑化整備 →北浜・中之島東部エリアにおいて、船が行き交う景色を意識した賑わい空間づくりを推進</p> <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・「水都大阪パートナーズ」と連携した水辺の賑わいづくり 水都大阪フェス（仮称）を開催し、舟運活性化や水都大阪の魅力発信に向けたリバーパレードなどの賑わいイベントを実施</p>	<p>○堂島川護岸ライトアップ及び遊歩道の緑化整備について、3月末に完了し、4月に点灯開始した。</p> <p>○北浜・中之島東部エリアの賑わい空間づくりは、測量と設計が完了した。</p> <p>○中之島や水の回廊において水都大阪フェス 2016 を実施（9～10月）。10月に「水辺のにぎわい3Days！」として集中的な取組みを実施した。</p> <p>・「水都大阪フェス2016」（自主・連携プログラム） 来場者数 140,987人</p> <p>・うち「水辺のにぎわい 3Days！」 （アウトドアヨガ祭り、もずやんバスデイ！、Ferrari Riverside Party2016等） 来場者数 43,264人</p>

	<p>◇成果指標（アウトカム） （定性的な目標）</p> <p>▶ ・水の回廊を中心に水辺の魅力や賑わいの創出など、「水と光の首都大阪」の実現に向けた取り組みを着実に推進する （数値目標）</p> <p>・舟運利用者数 対前年度比 10 万人の増加 平成 28 年度：80 万人 （平成 26 年度：60 万人 平成 27 年度：70 万人）</p>	<p>▶</p> <p>○舟運利用者数 平成 28 年度 84 万人（見込み）</p>
<p>■「大阪・光の饗宴 2016」(*3)の開催</p> <p>・昨年度と同様に、御堂筋イルミネーションを御堂筋全体（約 4km）で実施</p> <p>・御堂筋イベントと連携し、大阪・光の饗宴の開宴式（点灯式）を実施するとともに、御堂筋の一部区間を歩行者に開放</p> <p>（スケジュール） 28 年 11 月下旬～29 年 1 月中旬： 「大阪・光の饗宴 2016」の開催</p>	<p>▶</p> <p>◇活動指標（アウトプット） ・「大阪・光の饗宴 2016」の開催</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （定性的な目標）</p> <p>・大阪のシンボルである御堂筋や中之島を光で彩り、府域の民間等の光のプログラムと連携することにより、圧倒的な光景観を創出し、内外からの集客を図る （数値目標）</p> <p>・大阪光の饗宴全体の来場者数 1200 万人以上（大阪・光の饗宴 2015 実績 約 1154 万人）</p> <p>・大阪・光の饗宴として連携実施する民間等の団体数をさらに拡大 15 団体（2015）→20 団体（2016）</p>	<p>▶</p> <p>○「大阪光の饗宴 2016」を 11 月 20 日から翌年 1 月 9 日までの 51 日間開催した。</p> <p>○「御堂筋イルミネーション 2016」について、約 4km に亘る御堂筋を 8 つのエリアに分け、各エリアにあわせたカラーで装飾し、圧倒的な光景観を創出した。</p> <p>○大阪・光の饗宴開宴式（点灯式）を、11 月 20 日に御堂筋オータムパーティ 2016 に引き続き、久太郎町 3 交差点から新橋交差点までの区間を歩行者に開放し開催した。</p> <p>・平成 28 年度実績 大阪・光の饗宴全体の来場者数 1293 万人 連携して事業実施する団体数 16 団体</p>

大阪らしい文化・スポーツ施策の実現

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（H29.3月末時点）>
<p>■「アーツカウンシル」(*4)からの意見・提言を踏まえ、文化施策を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーツカウンシルによる調査や評価を踏まえ、文化施策の見直しを継続的に行い充実させる <p>(スケジュール) アーツカウンシル部会の開催（毎月）</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府の文化補助事業の調査・評価 34件（平成27年度26件） <p>▷</p> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAの手法を活用し、文化振興の好循環を生み出していく 	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「第4次大阪府文化振興計画」を策定し、計画にアーツカウンシルの運営体制の強化を位置づけ（11月）。 ○アーツカウンシル部会を9回開催（4月～1月）。府の文化補助事業等の審査・評価の実施を踏まえ、助成金制度に関するセミナーの開催やガイドブックを作成し、補助金申請の利用促進を図るなど、文化施策の好循環につなげた。 ・府の文化補助事業の調査・評価 34件
<p>■「芸術文化魅力育成プロジェクト」(*5)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪にある優れた芸術文化を掘り起こし、磨きをかけて強みに発信するとともに、芸術文化の担い手（若手プロデューサー等）を発掘、育成するために、前年度に続き、芸術文化魅力育成プロジェクトを実施する <p>(スケジュール) 28年秋 プレ事業の実施 29年春 事業実施</p>	<p>▷</p> <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加事業者数 10者（平成27年度4者） ・メディア掲載数 前年度並み（平成27年度33件） <p>▷</p> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>（定性的な目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪にある優れた芸術文化を身近に鑑賞できるようにする ・若手プロデューサーの発掘、育成 <p>（数値目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞者の満足度 80%以上（平成27年度88%） ・参加事業者の満足度 80%以上 	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ○未来の芸術文化を創造する若手プロデューサーが、大阪で人気のあるダンスパフォーマンス等を中心に、様々なジャンルのプログラムを企画・実施 ・プレイベント(10月) ・メインプログラム(12月～3月)：5プログラム ・参加事業者数 7者 ・メディア掲載数 20件 ・鑑賞者の満足度 95% ・参加事業者の満足度 87%
<p>■上方演芸資料館「ワッハ上方」(*6)の運営による上方演芸の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪府立上方演芸資料館資料活用検討委員会」の下、資料整理を実施する ・資料整理と並行して、展示事業を実施する ・大学等との連携を強化し、上方演芸に関する学術的な研究方策の検討を進める 	<p>▷</p> <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料棚卸し 80%以上 ・資料分類 50%以上 ・館外展示 3箇所以上 ・大学や関係機関との意見交換の実施 	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワッハ上方の運営 ・ワッハ上方来館者数：14,888人 ・来館者満足度：91.2% ○資料整理については、資料活用検討委員会資料整理部会において作業を行い、資料棚卸しは終了し、資料分類も目標どおりに進んでいる。 ・資料棚卸し 100%

<p>(スケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27～29年度 約6万点の資料の分類作業 ・28年11月～29年1月 館外展示 	<p>◇成果指標 (アウトカム)</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上方演芸資料館所蔵資料の有効活用を図り、上方演芸の振興を図る <p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者や館外展示鑑賞者の満足度 80%以上 (平成27年度 84.6%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料分類 64.8% ○館外展示については、ワッハ上方20周年を記念し、府内3箇所「上方演芸の殿堂入り」の館外展示会を開催。 <ul style="list-style-type: none"> [府立中之島図書館] <ul style="list-style-type: none"> ・来場者数：1,582人 (期間8月19日～30日) ・鑑賞者満足度：78.7% [なんばグランド花月] <ul style="list-style-type: none"> ・期間：12月26日～1月31日 [府立中央図書館] <ul style="list-style-type: none"> ・来場者数：932人 (期間1月20日～2月12日) ・鑑賞者満足度：79.1% ○大学や関係機関との意見交換の実施(7回)
<p>■2019年ラグビーW杯の開催に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会開催に向けた機運の醸成を図るとともに、ラグビー・スポーツの街「大阪」を内外にアピールするため、広報・普及啓発事業を展開し、ラグビーワールドカップ2019(*7)大阪・花園開催に対する府民の認知度を高める <p>(スケジュール)</p> <p>28年4～6月 広報・普及啓発事業 公募・選定 7月 事業着手</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーワールドカップ2019 広報・普及啓発事業(大阪開催キックオフイベント等)の実施 ・イベント参加者数 2万人以上 <p>◇成果指標 (アウトカム)</p> <p>(数値目標)</p> <p>▷ ラグビーワールドカップの花園ラグビー場開催に対する府民認知度 50%以上 (平成27年度 43.6%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報・普及活動や開催都市としての準備活動にオール大阪体制で取り組むため「ラグビーワールドカップ2019 大阪・花園開催推進委員会」を設立。合わせてキックオフイベントを開催し、メディアへのプロモーションを実施(テレビ放映11番組、新聞掲載15件、WEB掲載209件)(8月) ▶ ○大型ショッピングモール等(府内6箇所)でラグビー体験、展示ブース等のキャラバンイベントを開催(9～10月) ○東大阪市花園ラグビー場で元ラグビー日本代表選手&タレントチームと小学生チームによるタグラグビーエキシビションマッチを開催、併せて広報活動を実施(12月) ○トップリーグ、全国高校ラグビー大会等と連携・連動し、大会の認知度を高めるためプロモーションを実施

			(10月～1月) ○イベント参加者数：約 21,700 人 ○ラグビーワールドカップの花園ラグビー場開催に対する府民認知度：45.9%(11月時点)
<p>■「大阪マラソン」(*8)の開催</p> <p>・御堂筋、道頓堀、中之島、通天閣周辺など、大阪のランドマークを3万2千人のランナーが駆けめぐる国内最大級の都市型市民マラソン「第6回大阪マラソン」を開催する</p> <p>(スケジュール) 28年4月：ランナー募集開始 6月：公式イベント「大阪マラソンファンラン2016」開催 10月：大阪マラソン EXPO 2016 開催 第6回大阪マラソン開催</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <p>・第6回大阪マラソンの開催[H28.10.30]</p> <p>◇成果指標 (アウトカム)</p> <p>▷ 大阪マラソン参加申込者数：昨年以上 (平成27年度第5回大会：137,814人) 参加ランナー満足度：昨年並み (平成27年度第5回大会：96.8%)</p>	<p>▶ 第6回大阪マラソンの開催(10月)</p> <p>・大阪マラソン参加申込者数 133,861人 (うち海外からの申込者数 10,332人(前年度比1.4倍)) 参加ランナー32,259人、沿道観客133万人(前年度比1万人増) 大阪マラソン EXPO やチャリティ親子ラン等様々なイベントを展開し、元気あふれる大阪を世界に発信 一般参加ランナー満足度：95.8% 海外参加ランナー満足度：99.0%</p>	
<p>■ オリンピック・パラリンピック等事前キャンプ誘致の取組み</p> <p>・事前キャンプの誘致を通じ、府民が世界レベルの競技を間近で見たり、選手とふれあうことによる府民のスポーツへの関心やシビックプライドの向上を図る</p> <p>(スケジュール) 平成28年7月 PRツール(パンフレット等)作成 平成28年8月～ 誘致活動(リオ五輪終了後)</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <p>・キャンプ地としての大阪の優位性や都市魅力を各国競技団体等に発信するプロモーションツールを作成 ・オリンピック種目競技団体への誘致活動件数30件以上</p> <p>▷ 成果指標 (アウトカム)</p> <p>・キャンプ地視察等の具体的な調査・問合せ競技数2競技以上</p>	<p>▶ 〇オリンピック・パラリンピック等の事前キャンプ誘致のためのプロモーションツール(パンフレット、ホームページ)を作成</p> <p>〇オリンピック種目競技団体への誘致活動件数：5競技団体 在関西総領事等と大阪府・大阪市との意見交換会の場で事前キャンプ地としての大阪の魅力をPR：16か国 競技団体や総領事館への有効な働きかけ方策について市町村と協議・調整：10市町</p> <p>〇キャンプ地の具体的な問い合わせ競技数：3競技(3市)</p>	

万博記念公園活性化の推進

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（H29.3月末時点）>
<p>■「太陽の塔」耐震工事及び内部公開にむけた取組みの推進</p> <p>・「太陽の塔」の耐震改修工事や「地底の太陽」及び「生命の樹」の再生等、平成 30 年 3 月の内部公開に向けた取組みをすすめる</p> <p>また、太陽の塔の内部公開に向けての期待や機運醸成のため、寄付金募集を行う</p> <p>(スケジュール)</p> <p>28 年 7 月中旬 耐震改修等工事等入札実施 28 年 10 月下旬 工事着工、内部展示製作開始 28 年 11 月 寄付金募集開始 30 年 3 月下旬 寄付金募集終了 耐震改修等工事完成 ⇒ 公開</p> <p>■入場者数増加に向けた取組みの推進</p> <p>・平成 27 年度に開業した「EXPOCITY」や「市立吹田サッカースタジアム」のインパクトを活かし、事業者間の連携や広報・イベントの積極的展開等の取組みをすすめる</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・内部展示の公開（平成 30 年 3 月） ・事業者間の連携や広報・イベントの積極的展開</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （定性的な目標）</p> <p>・「人類の進歩と調和」をテーマとした 1970 年万博のシンボルであり、万博記念公園のシンボルである「太陽の塔」の耐震改修及び内部展示の再生・公開を行い、文化的価値を高めるとともに、後世に継承していく （数値目標）</p> <p>・寄付金募集目標額 5 千万円 （H28・H29 の 2 年間で総額 1 億円） ・平成 28 年度の自然文化園の入場者数 220 万人以上 （平成 27 年度実績 213 万人）</p>	<p>○「太陽の塔」耐震工事及び内部公開に向けた取組みについて、耐震工事及び内部展示制作委託は順調に進捗。</p> <p>○寄附金募集については、募集開始から 5 ヶ月間で、約 4 千万円の申込があった。寄附者銘板の金額設定の見直しや機運醸成のためのプレスレビュー等を実施。</p> <p>○公園イベントと園内各施設との連携を図り、入園者の増加に取組み、自然文化園の目標入園者数 220 万人を達成した。（約 220 万 7 千人）</p>

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に向けた取組み

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（H29.3月末時点）>
<p>■百舌鳥・古市古墳群(*9)の世界遺産登録に向けた取組み</p> <p>・平成 22 年に世界遺産暫定一覧表に記載された「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録の早期実現に向けた取組みを進める</p> <p>(スケジュール)</p> <p>平成 28 年 3 月：文化庁へ推薦書原案提出 4 月：国への要望活動 世界遺産シンポジウムの開催 5 月：首都圏での広報活動 7 月：国内推薦候補決定</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・世界文化遺産登録の早期実現をめざし、地元をはじめ首都圏に向けて機運の醸成を図るとともに、平成 28 年度の国内推薦を獲得する</p> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>・平成 30 年度の世界文化遺産登録をめざす</p>	<p>○府と地元 3 市の首長及び国会議員連盟等で、内閣官房長官、文部科学大臣、文化庁長官に対し要望活動を実施（4 月・7 月・1 月）</p> <p>○大阪市内でシンポジウムを開催（4 月）</p> <p>○首都圏でのテレビ番組制作・イベント、PR 活動を実施（6～7 月）</p> <p>○今年度の国内推薦見送りを受け、府と地元 3 市の首</p>

長からなる推進本部会議を開催し、今後の取組み方針を決定（8月）

○国内外の専門家を招聘し、国際専門家会議を開催（10月）

○首都圏での機運醸成を図るため、東京都内において初めて、登録応援大使任命式及び東京シンポジウムを開催（2月）

○29年度の国内推薦資産への選定に向け、文化庁に推薦書原案等を提出（3月）

統合型リゾート（IR）の府内立地に向けた取組み

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>

■統合型リゾート（IR）（*10）の府内立地に向けた取組み

- IR 関連法案の整備を見据え、
- ・IR 立地による経済波及効果や懸念される課題と対策等について調査・検討を実施
 - ・府民理解を深めるとともに、府内立地に向けた機運を醸成（府民向けセミナーの開催／地元経済界との意見交換の実施）
 - ・法整備にあたり、国の制度設計に対して提言・要望

（スケジュール）

- ・府が単独で行う基礎調査（想定を基にした経済波及効果・懸念される課題と対策等）
⇒年内に完了予定
- ・市と連携する調査
⇒市が実施するまちづくりのアイデア募集における提案内容の分析終了後に実施し、年度内に完了予定
- ・セミナーの開催や国への提言・要望
⇒国等の動向を見据えながら適時実施

<何をどのような状態にするか（目標）>

◇活動指標（アウトプット）

- ・調査・検討結果の取りまとめ
- ・セミナー等の開催
- ・国への提言・要望活動

◇成果指標（アウトカム）

- ・関連法案の整備を見据え、IR 立地に向けて、府民理解を深める

<進捗状況（H29.3月末時点）>

○6月、国に対しIR 関連法案の早期法制化等を要望し、12月末にIR 推進法が成立。

○府民理解を深めるために以下の活動を実施。
・IR 立地による経済波及効果や懸念される課題と対策等についての調査・検討
H28.12 月末までに結果を取りまとめ、H29.1 月に大阪府ホームページで公表。

・セミナー等の開催
1月に府民向けセミナーを開催。「IR とは何か」等、IR の基本的な内容及び府の調査結果について説明。

【部局長コメント（テーマ1総評）】

自己評価

ほぼ達成

<取組状況の点検>

■ 2020年オリンピック・パラリンピックを見据えた、更なる集客促進と都市魅力の発信

- 当初の目標をほぼ達成することができました。
- ・2020年に向け、大阪を世界的な創造都市、国際エンターテインメント都市へ加速させる「大阪都市魅力創造戦略2020」を策定公表しました。

■ 府域への戦略的な観光集客と観光客の受入環境の整備等

- 当初の目標をほぼ達成することができました。
- ・大阪観光局において、国内外プロモーションの実施、Wi-Fi拠点の拡大等を行うとともに、観光データの収集やマーケティングの強化、また各種データに基づくDMO戦略（アクションプラン）を策定しました。
- ・旅行者の利便性向上のためのサービスをワンストップで提供する「トラベルサービスセンター大阪（愛称：おもてなしステーション）」をJR大阪駅に整備し、29年3月に開業しました。

■ 水と光とみどりのまちづくりの推進

- 当初の目標をほぼ達成することができました。
- ・水辺のライトアップや遊歩道緑化、水都大阪パートナーズとの協働による水辺拠点での賑わいづくりや、舟運活性化に向けたイベントを実施し、水都大阪の魅力と認知度向上に努めました。

■ 万博記念公園活性化の推進

- 当初の目標をほぼ達成することができました。
- ・「太陽の塔」耐震工事及び内部公開に向けた取組みについては、平成30年3月の完

<今後の取組みの方向性>

■ 2020年オリンピック・パラリンピックを見据えた、更なる集客促進と都市魅力の発信

- ・策定した戦略に基づき、都市魅力関連施策を実施し、戦略目標の達成に向け取り組みます。また、施策の適切な評価管理を進めます。

■ 府域への戦略的な観光集客と観光客の受入環境の整備等

- ・宿泊税も活用して、府域への観光集客と観光客の受入環境の整備に努めます。
- ・大阪観光局について、国の地方創生推進交付金を活用してDMO事業を着実に推進する等、引き続き観光集客に向けた取組を進めます。
- ・御堂筋開放イベントについて、平成29年度も引き続き、集客力あるイベントを実施し、国内外に広く発信していきます。
- ・外国人旅行者の安全確保の充実を図ることで、さらなる観光客の誘客に取り組みます。

■ 水と光とみどりのまちづくりの推進

- ・水と光のまちづくり推進会議で決定した基本方針に基づき、さらなる水辺の賑わい空間づくり及び水辺景観の向上を図ります。
- ・「水都大阪パートナーズ」の4年間の取り組みを踏まえ、平成29年度より水都大阪のさらなる成長をめざす公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム」を設立し、「水と光の首都大阪」の実現に向け、オール大阪で取り組みます。
- ・「大阪・光の饗宴2017」を実施、冬の大阪を光で盛り上げます。連携して事業実施する団体の拡大に向け、市町村との連携をさらに図り、一層の府域連携に取り組みます。

■ 万博記念公園活性化の推進

- ・「太陽の塔」耐震工事等については、平成30年3月の一般公開に向けた取組みを進めます。寄附金募集については、平成30年1月末までに、目標額の1億円を達成で

- 成・一般公開に向け、当初の予定通りに進んでいます。
・入場者数増加に向けた取組みを推進しました。

■ **百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に向けた取組み**
目標を達成することができませんでした。

■ **統合型リゾート（IR）の府内立地に向けた取組み**
当初の目標をほぼ達成することができました。

- ・調査・検討事業やセミナーの開催等、府民理解を深めるための取組みを実施しました。

■ **大阪らしい文化・スポーツ施策の実現**

当初の目標を、ほぼ達成することができました。

- ・文化施策については、アーツカウンシルの審査・評価による補助事業の効果的な運用、芸術文化魅力育成プロジェクトによる芸術文化の担い手育成、ワッハ上方の資料整理や展示事業の着実な実施、上方演芸に関する大学等との研究方策の検討等大阪の文化振興につながる取組みを行いました。
- ・スポーツ施策については、第6回「大阪マラソン」の開催、2019年ラグビーW杯の開催に向けての広報・普及啓発事業の実施、オリンピック・パラリンピック等事前キャンプ誘致の取組みを行いました。

きるよう、積極的なPR等を行ってまいります。

また、入場者数増加に向けた取組みについても、将来ビジョンに掲げた目標である、平成32年度の入場者数300万人達成に向け、取組みを進めます。

■ **百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に向けた取組み**

平成29年度の国内推薦資産への選定、平成31年度の世界文化遺産登録に向けた取組みを、大阪府・堺市・羽曳野市・藤井寺市とともに進めます。

■ **統合型リゾート（IR）の府内立地に向けた取組み**

ギャンブル依存症等、懸念される課題への対策についてさらに検討し、IR誘致に向けて府民理解を深めてまいります。

■ **大阪らしい文化・スポーツ施策の実現**

- ・文化施策については、「第4次大阪府文化振興計画」に基づき、「文化自由都市、大阪」の実現を目指し、引き続き、その実現に向けた取組みを着実に推進してまいります。
- ・スポーツ施策については、「スポーツを通じた大阪の都市魅力の発信」及び「生涯スポーツ社会の推進」を基本に、様々な事業を展開するとともに、第7回「大阪マラソン」開催、2019年ラグビーW杯、2020年オリンピック・パラリンピック等に向け、引き続き機運醸成等に取り組んでまいります。